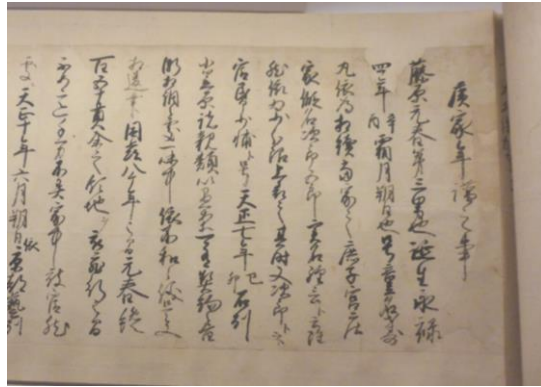


部屋住み時代の頃

吉川広家は元春の三男で家督を継ぐのは天正十五年です。それまでは部屋住み生活でした。そのことを年譜の前半部分に記しています。



(現代語訳)

藤原元春の三男として永祿四年(一五六二)十一月一日に誕生。童名は才寿丸。吉川家の庶子にあたる宮庄家の養子に入り、仮の名を次郎五郎、実名は経言とした。世帯が苦しいので吉川家に籍を戻し、その時に又次郎と称し、官名を民部少輔と号す。天正七年(一五七九)、石見の小笠原家へ養子の話があり、決まりかけた時に破談になった。以来八年間、父元春よ

り一五〇貫の所領をあてがわれたが、何かと思い通りにならず家中の者と同じ有様であった。というのです。その一つに部屋住み時代には仕えていた人数にあります。それが分かるのが広家の前代人帳に部屋住み時代の項にみえます。その数九十九名の名前がみえます。

前代人帳には戦没者や普請工事に従事した者、そして部屋住時代に仕えた者などが記されています。その部屋住時代仕えた者を表①にしてみました。同時期にこれだけ抱えていたとは思えません。改めてその多さに辛い思いをしてきたのだと納得できます。

名簿の中には岩国藩士には見かけない名前もあります。それを晩年に記し今日まで大事に伝わっているおかげで家臣の調査に役に立っています。

(原田史子)

部屋住み時代奉公衆 (前代人帳より引用)

1 堺左馬助	35 福原左助	68 木次土佐守
2 宇津宮備前守	36 内藤平左衛門尉	69 大草但馬守
3 豊嶋平右衛門尉	37 井頭九郎右衛門尉	70 田邊九郎右衛門尉
4 佐々木源兵衛尉	38 下 備前守	71 三上淡路守
5 内藤豊後守	39 小谷内蔵丞	72 摺子左近助
6 石川徳郎右衛門尉	40 浅原彦左衛門尉	73 大谷畝介
7 鈴川五郎右衛門尉	41 戸山左助	74 栗栖勘右衛門尉
8 有馬八郎右衛門尉	42 志谷宗兵衛尉	75 戸津川又右衛門尉
9 松浦隠岐守	43 福原市右衛門尉	76 森脇六郎右衛門尉
10 志谷源右衛門尉	44 小谷彌四郎	77 樋口市允
11 十川与左衛門尉	45 小谷蟹介	78 山口又兵衛尉
12 有馬平兵衛尉	46 大草次郎右衛門尉	79 熊代孫左衛門尉
13 大草又右衛門尉	47 木次竹允	80 矢上采女
14 作間藤兵尉	48 綿貫作左衛門尉	81 三嶋藤右衛門尉
15 戸川助兵衛尉	49 香川半右衛門尉	82 山中彦右衛門尉
16 生田与三右衛門尉	50 岸与十郎	83 畑野彌兵衛尉
17 綿貫半介	51 渡邊対馬守	84 波根彌兵衛
18 栗栖与七郎	52 仁田宗兵衛尉	85 佐伯彦兵衛尉
19 成相太郎左衛門尉	53 石井三十郎	86 米原七郎兵衛尉
20 二宮平左衛門尉	54 森脇縫殿允	87 米原与一兵衛尉
21 森脇喜左衛門尉	55 森脇新右衛門尉	88 目加田采女
22 春教	56 新見基右衛門尉	89 北村孫右衛門尉
23 井下源十郎	57 三須宗兵衛	90 高尾右衛門尉允
24 井下与介	58 森脇備前守	91 斎藤与右衛門尉
25 皆合彌三郎	59 綿貫左馬允	92 坂根十兵衛尉
26 安立長大夫	60 田岡勘兵衛	93 静間長左衛門尉
27 郷田宗左衛門尉	61 森脇五郎右衛門尉	94 竹谷源四郎
28 菅神兵衛尉	62 須子左近介	95 竹下左近允
29 吉川肥前守	63 河本宗四郎	96 慶意
30 森脇加賀守	64 奥野一允	97 内藤喜介
31 森脇和泉守	65 暮下大炊	98 大屋作右衛門尉
32 東 石見守	66 巻田彌十郎	99 森脇藤左衛門尉
33 岸 善右衛門尉	67 田中市右衛門尉	100 田中市兵衛尉
34 井下左馬允		

表①